

文勢如擊蛇則

首○救○尾○救○テ○段○段○ニ○カ○ル○ハ○是○ヲ○擊○蛇○

ノ勢ト謂フナリ、韓退之ノ師説是ナリ、

宋ノ陳善字號曰ク、桓温ハ八陳ノ圖ヲ見テ曰

ク、此常山ノ蛇勢ナリ、其首ヲ擊テハ尾應ジ、其

尾ヲ擊テハ首應ジ、其中ヲ擊テハ首尾俱ニ應

スト、予謂ク此特リ兵法ノミニ非ス、亦文章ノ

法ナリ、文章モ亦宛轉回復シテ、首尾俱ニ應ス

ルヲ要スルハ、乃チ善ヲ盡スト爲ス、山谷ノ詩
文ヲ論スルモ亦云フ、一篇ヲ作ル毎ニ、先ツ大
意ヲ立テ、長篇ハ須ク曲折スヘク、三ヒ意ヲ立
セハ、乃チ章ヲ成スノミト、此モ亦常山ノ蛇勢
ナリ。

文勢如破竹則

句。法。連。下。シ。テ。一。句。ハ。一。句。ヨ。リ。緊。ナ。ル。ハ。是。ヲ。破
竹ノ勢ト謂フナリ、蘇子瞻ノ潮州韓文公廟碑ノ

如キ、首段ニ五個ノ失字ヲ連下スルハ之ニ似タ

リ、韓退之ノ送浮屠文暢序ノ篇末ニ五個ノ也字

ヲ連下スルモ亦參看スヘシ、

明ノ孫執升曰ク、左傳ニ鄭ノ子産ノ陳捷ヲ晉

ニ獻スルヲ載タルハ、晉人ノ三問辭氣揮厲ナ

ルニ、子産ハ只先王ヲ提出シテ主ト作ヌ便ナ

已ニ大把握ヲ得タリ、故ニ問ニ隨ヒ答ヲ置テ、

勢ヒ破竹ノ如シ、

先虚後實則

サニキヨクノキノエジツクマク

謝疊山云フ、文章ハ先ツ冒頭ヲ立テ、然後ニ事ニ

ゴノキヨクノキノエジツクマク

入ルト、又是一格ニテ、蘇子瞻ノ伊尹論ノ如キ具

ナリ、子瞻ノ鼂錯論モ、亦參看スヘシ、

明ノ沈虹臺曰ク、文章ハ最モ相生ノ次第ヲ要

アヒキル

ス、先虚後實、先畧後詳ノ如キハ、此其常ナリ、亦

先實後虚、先詳後畧ナル者アルハ、其變ナリ、此

布置ヲ知レハ、文ニ起伏アリ、首尾アリ、輕重徐

ジツ

疾各其所ヲ得テ、觀者厭ハス、

先疑後決則

マニウカノシツクマク

文章ハ手ヲ下スノ處ニ於テ最モ直突ヲ嫌フ、須

チツク

ク先ツ疑辭ヲ以テ説起シ、然後ニ正意ヲ以テ之

ハニウカノシツクマク

ヲ決スヘキハ、方ニ文勢曲折ノ妙ヲ見ル、蘇子瞻

ノ三槐堂銘ノ如キ、始メニ天ノ可必不可必ヲ以

テ並ヘ説キ、末ニ漸ク可必上ニ説キ入ル、這樣ノ文

法ハ却テ孟子ノ中ヨリ來レリ、韓退之ノ送浮屠

文暢序モ、亦參看スヘシ、

清ノ蔡九霞曰ク、文序先キニ寛ニシテ後ニ緊
ク、先キニ疑ヒテ後ニ斷スルハ、是ハ鍛鍊ノ法ナ
リ、

下句載上句則

凡ソ文章ノ上句重ク下句輕キハ、或ヒハ上句ハ
爲メニ壓倒セラレハ、須ク上下相稱フヲ要ス
ヘシ、歐陽永叔ノ畫錦堂記ノ如キハ、仕官而至將

相富貴而歸故郷ト云ヒ下即チ承ルニ此人情之
所榮而今昔之所同也又以テス蘇子瞻ノ亦一居
士集序ニ夫言有大而非誇ト云ヒ下即チ承ルニ
達者信之衆人疑焉ヲ以テス這樣ノ語句ニ非レ
ハ亦載起サヌ此妙處ハ惟老手之ヲ知ル

宋ノ唐子西曰ク、韓退之ノ與人書ニ泥水馬駭
不敢出、不果鞠躬親門、而以書ト若シ而以書ノ
三字ナケレハ上重キ甚シ此文ヲ作ルノ法ナ

綴上生下則

文章前面ハ各意ニ分説シ後又總叙過下シテ論ヲ立ルハ是ヲ上ヲ綴リ下ヲ生スルト謂フナリ、論體ハ例ニ此法ヲ用リ、范希文ノ岳陽樓記、蘇子瞻ノ醉白堂記ノ如キ、以テ式ト爲スヘシ、清ノ沈歸愚曰ク、蘇策ノ倡勇敢篇ニ、下人爭先、百夫屬目ト、此倡ノ説ナリ、天子有所私之將將

軍有所私之士ト、此私ノ説ナリ、之ヲ私シ正ニ以テ之ヲ倡フハ、連綴相生シ、縱橫豪宕、自ラ是レ者泉ノ家數ニシテ、其原ハ韓子ニ出ツ、

疊上轉下則

上文ニ一句ノ説話アリテ、下即チ頂上ヨリ申説スルノ一句過文ノ如ク相似タルハ、是ヲ上ヲ疊ミテ下ニ轉スルト謂フナリ、陳止齋ノ論ヲ作ルニハ、喜テ此法ヲ用キ、蘇明允ノ心術論、蘇子瞻ノ

荀卿論ノ如キ、以テ法ト爲スヘク、王子充ノ標隱
記モ、亦參看スヘシ、

清ノ唐翼修曰ク、過文ハ乃チ文章筋節ノ在ル
所ニテ、已ニ發スルノ意ハ、此ニ賴テ開拓スレハ、收成シ、未
夕發セサルノ意ハ、此ニ賴テ開拓スレハ、此處
ノ聯絡最モ宜ク法ヲ得ヘシ、或ヒハ波瀾ヲ作
シ、數語ヲ用キ轉折シテ下リ、或ヒハ止一二語
ヲ用キ直捷シテ渡ル、反正長短、皆抑ラサル所

ニテ、總テ迅疾矯健、兔起鶻落ルノ勢アルヲ
要スルハ、方ニ佳ナリ、然ラサレハ前後ノ文極
ノテ精エナリト雖、亦色ヲ減ス、

欄截上文則

凡ソ句法直下シ來ルハ良馬ノ峻嶺ヲ下ルカ如ク、
輕舟ノ長湍ヲ下ルカ如クニテ、若シ一句ノ欄
截スルナケレハ、便チ文章ヲ成サス、韓退之ノ原
道ノ如キ、堯以是傳之舜云云、織スルニ軻之死不

得其傳焉ヲ以テス、此、兩句ノ絶妙ナルハ、以テ法ト爲スヘシ、退之ノ上、張僕射書ニ、執事之好士也如此云云、截スルニ則死於執事無悔也ヲ以テスルモ、亦參看スヘシ、

本邦ノ頼山陽曰ク、蘇子由ノ上、樞密韓太尉書ニ、轍生十有九年矣ヨリ、筆勢驅突シテ來リ、而轍也未之見焉ニ至テ、一頓力ニ奔馬ヲ截ス、且夫ヨリ再ヒ前意ヲ提テ重テ之ヲ言フハ、波濤

ノ沓感スルカ如ク、此ニ非レハ一瀉シ去リ、文ヲ成サス、

設爲難解則

凡ソ辨難ノ文字ヲ作ルニハ、須ク問難ヲ設爲シ、テ已レカ意ヲ以テ分解スヘシ、此ノ如クナレハ

惟說理ノ明透ナルノミニ非スシテ、文字モ亦精

神ナルヲ覺ユ、歐陽永叔ノ春秋論、王陽明ノ元年

春王正月論ノ如キ是ナリ、柳子厚ノ與韓愈論史

書ハ皆是韓愈一篇ノ親ニ據テ歷舉シ、正理ヲ以テ之ヲ折スルモ、亦是辨論ノ體故ニ此ニ附ス、韓退之ノ諍臣論、蘇明允ノ春秋論モ、亦參看スヘシ、宋ノ樓迂齋曰ク、昌黎ノ進學解ニ、師弟子詰難ノ辭ヲ設爲シテ、以テ其己レカ意ヲ伸ルノ機軸ハ、揚雄ノ解嘲、班固ノ賓戲ヨリ來ル、
含意不露則
一等辨論ノ文字アリ、全ク直チニ說破セシテ、

盡ク是レ疑ヒテ設ケ伴リテ兩可ノ辭ヲ爲ス、智者ノ自ラ擇フヲ待ツハ、此別ニ是レ一様ノ文字ニテ、韓退之ノ諱辨ノ如キ是ナリ、清ノ林西仲曰ク、岳武穆ノ良馬對ニ、乃チ馬ノ良タル所以、不良タル所以ノ處ヲ將テ細細ニ分別出來ルハ、全ク國家ノ人ヲ用ウルカ爲メニ說法シテ、妙ハ含蓄不露ニアリ、若シ一語ノ士ヲ相ルヲ添レハ、便チ索然味ヒナシ、不幸相

繼以死シテ今所乘者ノ兩句ヲ玩ハ、舉朝人ナク、
皆驚鈍ビバドレニ屬スルヲ罵盡シテ、尤モ感慨ノ極ナ
リ、

設爲問答則

又一等ノ文字アリ、直チニ發揮セシテ、廻チ孟
子ノ文法ヲ學ビ、隨テ問ヒ隨テ答フル者モ、亦是
一格ニテ、韓退之ノ鞞禹問、王陽明ノ龍場生問答
ノ如キ是ナリ、

明ノ方三山曰ク、前輩ノ文字ヲ作ルニハ、多ク
先ツ問答ヲ設爲シテ、反覆詰難ハシクシテナシリセムノノ説既ニ窮
シ、然後ニ斷スルニ已レカク見ヲ以テス、若シ直
頭ヨリ便チ自家ノ説ヲ把テ提起スレハ、恐ク
ハ人未タ遽カニ以テ然リト爲サス、唐子西ノ
禍福論ハ、文勢此ニ類ス、

辨史則

凡ソ辨史ノ文字ヲ作ルニハ、前面ニ正理ヲ把キ

他ヲ難得テ、カタク 躲避スルノ處ナシト雖、カタク 末ニ當ニ
一步ヲ放寬シテ、サマシク 十分ニ執結スヘカラサルヘシ、
蓋シ史ヲ作ル者ハ、當時必ス據ル所アルヲ以テ
ナリ、柳子厚ノ桐葉封弟辨ノ如キ、以テ式ト爲ス
ヘシ、

明ノ康對山曰ク、方正學ノ西伯伐崇論ハ、文王
ノ心事ヲ説透シテ、辨論曲折、老吏ノ斷案ノ如
ク、人自ラ屈服ス、此ニ熟シテ以テ史論ヲ作レ

ハ、主司必ス當ニ題目スヘシ、

文短氣長則

文章簡短ナルハ、氣ノ長キヲ得カタシ、惟韓退之

送董邵南序、王荆公ノ讀孟嘗君傳ハ、許多ノ轉

折アリテ之ヲ讀ムニ、氣ノ短キヲ覺エス、真ニ妙

手ナリ、文章ノ真ニ長クシテ簡直氣ノ短キ者ハ、

盧襄ノ西征記是ナリ、是篇ハ每ニ大家ニ録セラ

レス、故ニ載サルナリ、

清ノ蔡九霞曰ク、古文ハ漢以後ニ至リ、大都暢
滿トナリテ、簡嚴タル能ハス、惟昌黎ノ送董邵
南序ハ、千萬言ヲ斂メテ數百字ト爲ス、却テ仍
長篇ノ局勢ヲ具ス、

字少意多則

司馬君實ノ諫院題名記ハ、僅ニ百餘字ニシテ、諫
意已ニ悉ス、文ノ簡ニシテ切ナル者ナリ、之ヲ錄
シテ以テ時習ノ陋ヲ洗フ、韓退之ノ獲麟解モ、亦

參看スヘシ

宋ノ樓迂齋曰ク、蘇老泉ノ族譜引ハ、議論簡嚴、
字數少クシテ曲折多ク、特文章ノ妙ノミニ非
ス、以テ忠厚ノ氣象ヲ見ルヘク、草草ニ看過ス
ヘカラス、

字煩不厭則

文章ノ字ヲ下シ重疊ナルハ、未タ人ノ厭ヲ起サ
サル者アラス、惟韓退之ノ送孟東野序ハ、凡ソ六

百二十餘字ニテ鳴字四十アルハ之ヲ煩ニ失ス
 ルニ似タリ然レハ句法ノ變化二十九様ニテ愈
 讀テ愈喜フヘク畢竟覺エス誰カ文章ノ妙ハ轉
 換ノ間ニアラスト謂フヤ大抵此篇ノ文字ハ周
 禮ノ粹人爲筍簾ヨリ來ル馮用之ノ機論ハ三十
 餘ノ機字ヲ用キ之ヲ讀ムモ亦覺エス但文ノ粹
 ナル者ニ非ス故ニ載サルナリ
 明ノ茅鹿門曰ク韓文公ノ送孟東野序ハ一鳴

字ニテ文ヲ成ス乃チ獨リ機軸ヲ得テ命世ノ
 筆力ナリ此ヨリ前ニ唯漢書ニ蕭何ノ韓信ヲ
 追フヲ敘スルハ數十ノ亡字ヲ用ク

雙關則

雙關文法ハ諸家ニテ惟韓文ニハ喜テ用キ韓文
 ニテ惟與陳給事書ニハ極メテ用得テ巧ナレハ
 以テ論ヲ作ルノ式ト爲スヘシ陳止齋ノ雙關文
 法多クハ此ニ本ツク退之ノ諍臣論ニ盡之十九

ヲ觀レハ、却テ是レ一層ハ一層ヨリ深キノ文
法ナリ、

下字影狀則

凡[○]文[○]字[○]ノ事[○]ニ託[○]シテ論[○]ヲ立[○]ルハ其用字用意
須[○]ク事[○]ト親切[○]ナルヲ要[○]スヘシ、韓退之ノ送王舍
秀才序ノ如キハ、醉鄉記ノ三字ヲ以テ、一篇ノ議
論ヲ生シテ、首尾字ヲ下スニ影狀セリ、細ニ之ヲ
味[○]フレハ、方ニ其巧ヲ見ル、

本邦ノ長野豊山曰ク、韓文公ノ送王秀才序ニ、
醉鄉ヲ取テ影狀ヲ來タスルハ、コレ所謂烘雲
ノ法ニテ、又、公ノ奇巧ヲ弄スルノ處ナリ、

相題用字則

近[○]コ[○]舉業ノ文字ヲ見レハ、每ニ題ノ宜キ所
因[○]テ借用スルノ字樣ハ正式ニ非スト、雖[○]氏[○]亦是
巧思ノ在ル所ナリ、賈誼ノ論積貯末ニ廩廩ノ字
ヲ用ナルハ、正ニ是レ此法ニテ、此ニ熟スレハ自

ラ能ク題ヲ相テ施ク、

本邦ノ頼山陽曰ク、蘇子由ノ黃州快哉亭記ノ末段ニ、而況ト不然ト、以テ**反振**シテ勢ヲ見ル、而後ニ烏字哉字ヲ以テ**掉尾**スルハ、文字雄麗ニシテ、題ト相稱フ、

題外生意則

題意平常ナルハ、若シ此ヲ**擲**テ**發揮**スレハ、**文字**却テ味ヒナシ、**須ク**題外ニ於テ別ニ議論ヲ生シ

テ、以テ題ノ及バサルヲ相クヘキハ、方ニ佳ナリ、

宋潛溪ノ**閔江樓記**ノ如キ、斯樓ノ建ルハ、治ヲ致スノ思ヒヲ**寓**スル所以ニテ、夫ノ長江ヲ**闡**スルノミニ非スト、**譚**リ、**這**様ノ論ハ、**淺見薄識**ノ能ク到ル所ニ非ス、

清ノ唐翼修曰ク、善ク文ヲ作ル者ハ、能ク題目ナキノ處ニ於テ、文字ヲ生出シ來リ、或ヒハ古ヲ借テ以テ今ヲ**證**シ、或ヒハ彼ニ因テ此ヲ**例**

ス、多方ニ援ニ据ニシテ窮ラサルハ、東坡ノ論ノ如キ
是ナリ。

駁ハタシテ難シ本題ヲ則

凡ソ題目ノ意見ハ偏ニ枯ナルハ、即チ當ニ駁シ難シテ。
正ニ歸スヘシ、王子充ノカキ樗ノ隱ノ記ノ如キ、當時ノ寓
意者ハ、樗ノ不材ナル、以テ其天年ヲ全フスヘシ
ト謂フハ、此レ莊周有激ノ言ニ本ニツクニテ、通論ニ
非ルナリト、提テ作ノ理ニ據テ駁シ難スルハ、以テ論

ヲ作ルノ式ト爲スヘシ、

元ノ虞邵菴曰ク、歐陽公ノ畫錦堂記ハ、是レ題
中ノ尊ニ題ニテ、畫錦ノ説ハ、項羽朱買臣ニ始リ、
其志ノ卑陋ナルハ、道ヲニ足ラサレハ、當ニ恥
スヘキモ、韓公ハ一世ノ偉人ニシテ、此ヲ以テ
堂ニ名ケタルハ、恥スヘカラス、歐陽公却テ謂
フ、富貴ニシテ故郷ニ歸ルヲ以テ榮トスルハ、
窮士ノ爲ス所ニテ、韓公ハ早ク貴ケレハ、窮士

ト同シカラス、其畫錦ヲ取テ堂ニ名ケタルハ、
蓋シ古人ノ爲ス所ノ者ヲ以テ戒トナス、其功
業ノ就ルカ若キハ、乃チ邦家ノ光ニテ、閭里ノ
榮ニ非ルナリト、辭意奧妙ナリ、

回護題意則

凡ソ議論ハ、聖人ノ是ナラサルノ處ハ、須ク正理
ヲ以テ回護スヘシ、蓋シ聖人ノ心、本正大ニテ、
其或ヒハ足サル者ハ、不遇ニ遭フノミ、呂伯恭ノ

武王論

ノ如キ、紂ヲ伐ツハ已ムヲ得サルニ出テ
、已レカ爲メニスルニ非ルナリ、天下ノ爲メニ
スルナリト謂フ、此ノ如ク論ヲ立レハ、聖人ノ心
事白ス、蘇子瞻ノ周公論モ、亦參看スヘシ、

明ノ素了凡曰ク、士子ノ論ヲ爲ルニハ、須ク忠
孝ニ依リ、禮義ニ止ルヘシ、群彦ヲ翻馬スヘク、
聖賢ヲ戲薄スヘカラス、理ニ據リ辭ヲ陳スヘ
ク、強辭ニテ理ヲ奪フヘカラス、宜ク有過中ニ

於テ無過ヲ求ムヘク、無過中ニ於テ有過ヲ求
ムヘカラス、議論一出レハ、他人ノ人品ニ關シ
テ、即チ自己ノ人品ニ關ス、慎マサルヘケンヤ、
カソ駕空立意則
蘇明允ノ春秋論ハ、天子ノ權ヲ以テ魯ニ與フル
ノ意ヲ揣摩シテ、一段ノ議論ヲ作ス、高祖論ハ、呂
氏ヲ去サルノ意ヲ揣摩シテ、一段ノ議論ヲ作セ
リ、當時夫子ト高祖トノ意ハ、未タ必スシモ此ノ

如クナラス、皆是空ニ駕シテ自ラ新意ヲ出セル
ニテ、文法最モ高シ、之ヲ熟スレハ必ス論ニ長ゼ
ク、
清ノ沈歸愚曰ク、韓文ノ人ニ勝ルノ處ヲ看破
スレハ、只是翻空ナリ、若シ沾沾トシテ實説ニ
粘滯スルハ、乃チ後人應酬ノ文字ニシテ、近代
此ヲ以テ體ヲ得ルトスルハ、怪ムヘキナリ、

死中求活則

凡ノ文字議論ノ已ニ至處ニ到ルハ更ニ一段ノ議論ヲ出シテ題意ノ尋常ナルニ瀕レサルハ是ヲ死中ニ活ヲ求ムルト謂フ此文法ノ最モ妙ナル者ニテ蘇子瞻ノ范增論ニ方羽殺卿子冠軍ノ一說鼂錯論ニ當此之時ノ一段ノ如キ是ナリ此二篇ニ熟スレハ文字自ラ佳思アリ明ノ徐傲弦曰ク善ク文ヲ作ル者ハ固ヨリ題ヲ去テ浪說セサルモ亦題中ニアリテ纏繞セ

ス、只是空ヲ凌キ駕馭シテ轉折變化シ、全篇ニ人ノ好ヲ說クカ如キハ、全ク堯舜周孔、聖賢ノ好スヘカラサル以下ハ、極メテ好ト雖、亦當ニ此ノ是ナラサルノ處ヲ尋テ、他ヲ斷スヘシ、全篇ニ人ノ不好ヲ說クハ、桀紂幽厲亂賊ノ衰スヘカラサルヲ除キ、其餘ハ極メテ不好ト雖、當ニ此ノ好處ヲ尋テ、他ヲ救フヘシ、理ノ是非ヲ辨シ、事ノ同異ヲ論スルニ至テハ、咸此ニ

倣ヒ、名ケテ死中ニ活ヲ求ムルト曰フ、

立意貫說則

ガシモクモシラモシキナシクモク

文ヲ作ルニハ須ク大頭腦ヲ尋ヌヘシ、意ヲ立得
テ定メ、然後ニ辭ヲ遣リ遣リ發揮スレハ、方ニ是レ氣
象渾成ナルハ、韓退之ノ代張籍與李浙東書ニ、旨
字ヲ以テ貫說シ、蘇子瞻ノ留侯論ニ、忍字ヲ以テ
貫說スルカ如キ是ナリ、柳子厚ノ駁復讐議ハ、旌
誅ノ二字ヲ以テ骨子トナセリ、以テ參看スヘク、

餘ハ類推スヘシ、

ケレモソクナシ

本邦ノ賴山陽曰ク、東坡ノ秦始皇論ハ、智字ヲ
以テ線索ト爲ス、篇首ノ皆不可以言智ノ句ハ、
全篇ヲ貫透ス、

總應前後則

凡ソ文字ニ緊關ノ語句アリテ前面已ニ清出ス。
雖モ又後面ニ於テ繳說シテ前ト相應スルハ、
是亦文法ノ在ル所ニテ但用處ハ同シカラス冒

頭ニ於テ用ウル者アリ、蘇明允ノ任相論、御將論
ノ如キ是ナリ、フクカワ腹講ニ於テ用ウル者アリ、蘇子瞻
ノ續楚語論、王者不治、夷狄論ノ如キ是ナリ、首尾
ニ於テ用ウル者アリ、蘇子瞻ノ周公論ノ如キ是
ナリ、餘ハ悉ク録シカタシ、之ヲ用ウルノ何如ヲ
顧ヘ、

清ノ魏叔子曰ク、シヨ文、字、首、尾、照、應、ノ、法、ハ、明明明、明、起起、
シヨ處ニ繳應スル者アリ、意ニ顧ミサル者アリ、意

ナキカ若クニシテ牽動スル者アリ、反テ通篇
ヲ罵破シテ、實ハ是レ照應收拾スル者アリ、變
化ヲ明カニセサレハ、千篇一律ニシテ、文モ亦
板俗ニ入り易シ、

豊用繳論則

イ多シキナリシテ、イ多シキナリシテ、イ多シキナリシテ、

歐陽永叔ノ泰誓論、凡ソ七段、首ノ六段ハ、六意
繳ニテ、語相同シ、此様ノ文法ハ、論體ニ于テ極
メテ切ナリ、陳止齋ノ山西諸將孰優論、却テ是レ

此ヲ學フ、

宋ノ方蛟峯曰ク、陳止齋ノ山西諸將孰優論ハ、
趙克國蘇武ヲ提出シ、其渾厚深澁、優劣ヲ稱ス
ル、多シシ判_カ判_チ續_シ密_シニテ、蓋シ習_シ俗_ヲヲ説クハ、乃チ山西
ノ意ヲ含_ムハ所以ニシテ、賢者モ免_ル、能ハサ
ルヲ説クハ、乃チ諸將ノ意ヲ含_ム所以ナリ、原
題_多以下凡ソ五段、皆孰字ヲ用キテ、蘇趙二子ニ
トイフ總_シ歸_ス立論一層ハ一層ヨリ高く、是一格ナリ、

結意有餘則

人_比皆_テ結_テ末_ノ處_ニ于_テ、忽_カ思_ハニスル多クシテ、文ノ
工_多ヲ用_ルウルハ尾_ニニアラスト謂_フ、殊_ニ知_ラス一
篇_ノ命_脈歸_東此_ニアレハ須_ク言_ハ盡_ルアリテ、
意_ノ窮_ルナキヲ要_スヘシ、清廟三嘆_シテ餘_音ア
ルカ如キハ、方ニ妙手ト爲ス、歐陽永叔ノ縱_論論
ノ如キ、以テ式ト爲スヘク、韓退之ノ原道モ亦參
看スヘシ、

宋ノ陳止齋曰ク、結尾ハ尤モ造語精密ニテ、遺
文順快ナルヲ要ス、蓋シ精密ナレハ、文外ノ意
アリテ、人ヲシテ之ヲ讀テ愈窮ラサシム、順
快ナレハ、才力ノ乏シカラサルヲ見テ、人ヲシ
テ之ヲ讀テ餘味アラシム、

竿頭進步則

文章ハ結末ノ處ニ於テ最モ軟弱ヲ嫌フ、又須ク
百尺竿頭更ニ一步ヲ進ムヘシ、畫江ノ畫ニ於ケ

ルカ如ク、愈出シテ愈奇ナルハ、方ニ妙手ト爲ス、
韓退之ノ獲麟解ノ如キハ、以テ式ト爲スヘシ、

明ノ茅鹿門曰ク、蘇老泉ノ木假山記ハ、木假山
ニ即キ、許多ノ幸不幸ヲ看出シ來リ、中ハ凡ソ

六轉シテ山ニ入り、末ニ又一轉スルハ、百尺竿
頭ノ意アリ、

結末拈應則

凡ソ文章ノ前面ハ、散散鋪叙シテ、後ニ宜ク大意

ヲ。結。括。シ。テ。前。ト。相。應。ス。ヘ。キ。ハ。方。ニ。收。拾。ノ。處。ヲ
見ル。柳。子。厚。ノ。答。韋。中。立。論。師。道。書。歐。陽。永。叔。ノ。上。
范。司。諫。書。ノ。如。キ。末。皆。前。意。ニ。繳。應。ス。ル。ハ。以。テ。式。
ト。爲。ス。ヘ。シ。

清ノ林西仲曰ク、劉向ノ論甘延壽陳湯功疏ハ、
首段ニ郵支ノ罪ヲ敘スルニ、即チ羣臣皆閉陛
下欲誅ノ二語ヲ以テ提起シテ、隨テ承聖指ノ
三字、羣臣之勲莫大ノ六字ヲ以テ、前後呼應シ、

中間ヨリ末ニ至ルマテ、計スルニ六引証ニテ、

段段比斷シテ、變化ヲ曲盡ス、末又一總收拾シ
テ、皆極メテ甘陳ノ功ヲ寫セルハ、筆力甚勁シ、

結末推原則

篇内ハ但事ニ據テ議論シテ、結末ニ於テ復其由
ヲ究ムルハ、之ヲ推原文法ト謂フ、賈誼ノ過秦論
ニ、秦ノ亡フル所以ヲ究メ、班孟堅ノ異姓諸侯王
表ニ、漢ノ興ル所以ヲ究ムルカ如キ是ナリ、

宋ノ樓迂齋曰ク、項羽ノ宋義ヲ殺スハ、便チ是
レ義帝ニ迫ルヲ要シテ、義帝ヲ殺スハ、便チ是
レ范增ヲ去ルヲ要ス、蓋シ宋義ハ是レ義帝ノ
愛スル所ニテ、義帝ハ是レ范增ノ立ル所ナレ
ハ三人ノ生死去就最モ相關係スルハ、東坡ノ
范增論ヲ作ルニ、推原得テ出ス、筆力老健ニシ
テ、一箇ノ閑字ナシ、

結末推廣則

スベク多ク
ハカシ

題意此ニ止リテ、結末ニ于テ復類ニ因テ以テ其
餘ニ及フハ、之ヲ推廣文法ト謂フ、蘇子瞻ノ刑賞
忠厚之至論ニ、春秋ハ褒貶ニ因テ以テ賞罰ヲ制
スル、亦忠厚ノ至リナリト謂フカ如キナリ、
清ノ唐翼修曰ク、文ノ後幅ニ至テ、正義已ニ盡
キ、以テ發揮スカタキハ、題外ニ於テ一層ヲ推
廣スヘシ、苟モ說得テ關係アリ、根據アレハ、前
半ノ文情、此ヲ得テ愈々振動スルナリ、

結末垂戒則

凡○ッ○罵○題○ノ○文○字○ヲ○作○ル○ニ○ハ○須○ク○結○末○ニ○于○テ○
戒○ノ○意○ヲ○垂○ル○ヘ○キ○ハ○方○ニ○餘○味○ア○リ○此○小○節○ト○雖

氏○亦○畧○ス○ヘ○カ○ラ○ス○杜○牧○之○ノ○阿○房○宮○賦○蘇○明○允○ノ
六○國○論○ノ○如○キ○ハ○皆○此○法○ヲ○得○タ○リ○好○題○ノ○結○意○ハ

此ニ反ス、

ハナハシキ

清ノ林西仲曰ク、李文叔ノ書洛陽名園記後ハ、
止唐之末路ノ四字ヲ用テ、一結便チ往ス、戒ヲ

垂ル、ヲ言スシテ、戒ヲ垂ル、ノ意自ラ言外
ニアリ、

結句有力則

韓退之ノ送石洪處士序歐陽永叔ノ朋黨論此二
篇ノ文字ハ、結束一二句ト雖、而モ實ニ萬鈞ノ
力アリテ、廻チ文法ノ絶妙ナル者ナリ、

明ノ楊升菴曰ク、蘇子瞻ノ上韓太尉書ハ、前數
段全ク是レ緊要ノ語ナク、妙ハ後段結束ニア

明治十三年十一月十六日版權免許
同 年十二月十三日出版

定價參拾五錢

參說者

本所區本所花町
苗番地寄留

青森縣平民

齋藤

弘

訓譯者

同區相持町四丁目其地

東京府士族

清水昌章

出版者

同區花町苗番地寄留

青森縣平民

齋藤文男



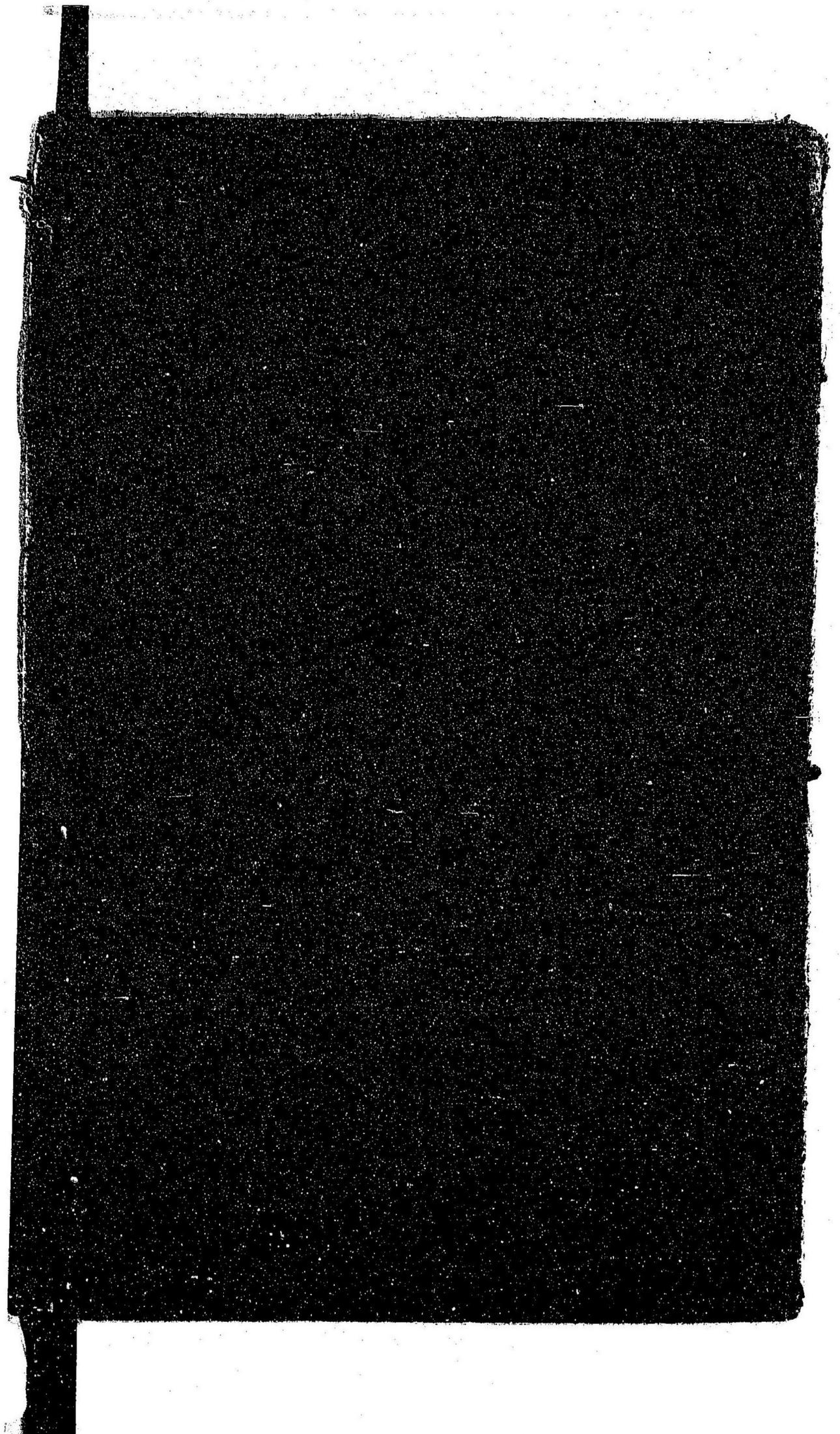
東京馬場町三丁目

石川治兵衛

發兌
書肆

同區馬場町三丁目

小林新造



特33

53

大日本教育會館

二册	一〇號	四架	三九函
----	-----	----	-----

東
新
七

寺作文法

清水昌章訓譯

下